

食害からアサリを守る

平成28年10月5日付、本ホームページで紹介しましたが、岡山県では平成25年度から国の委託プロジェクト研究により、浅口市寄島町の人工干潟でアサリ資源増大に向けた試験を行っています。本試験において、これまでにアサリが比較的多くみられる春季にかぶせ網を設置すれば、秋季までの減耗を防止できることが分かりました。しかし、本干潟でのアサリの減少要因は、波浪による逸散なのか、魚類等による食害なのか、よく分かっていませんでした。理由も分からず、ただ網を設置しておけば、アサリは一定量残るとというのが現状です。そこで、今回、本干潟におけるアサリの減耗要因を魚類等による食害と想定し、干潟にアサリをまき、そこにかぶせ網を設置した区と設置しない対照区を設け、水中カメラで撮影・録画を行いました(図1)。

なお、試験は平成29年6月19日から8月23日にかけて計6回実施しました。

その結果、8月9日および8月23日を除き、対照区においてクロダイがアサリを捕食している様子が撮影されました(図2)。対照区の残存率は34~100%で、カメラによる観察から、減少したアサリはクロダイのみが捕食していたことが確認できました。一方、かぶせ網区は、いずれも残存率100%でアサリの減少はみられませんでした(図3)。また、クロダイがかぶせ網の下にいるアサリの捕食を試みたものの、無理と分かり捕食を断念する様子も観察されました。

このように、アサリ減少の主要因は、クロダイによる食害であることが明らかになり、特に、6月中旬から7月中旬にかけて食害が多いことが分かりました。そして、今回、改めて魚類の食害防止対策としてかぶせ網の有効性が実証されました。

このほかに、かぶせ網にはアサリの成育に寄与したり、稚貝の着底を促進したりするという良い面があります。しかしながら、網の設置や撤去が重労働となることや、網の目詰まり等で頻繁にメンテナンスが必要となる等の課題が残っています。今後、これらの課題を克服するために知恵を絞っていかねばならないと思っています。

(開発利用室：泉川)

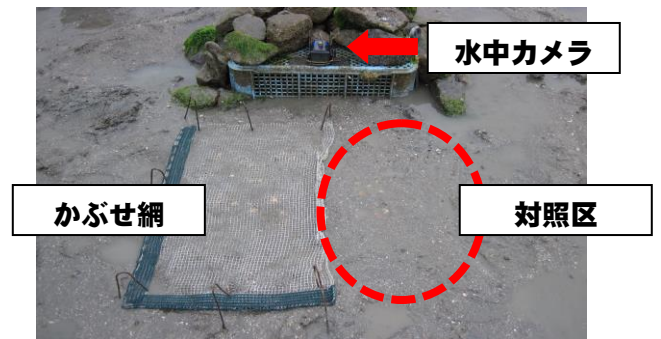


図1 試験区の設置状況



図2 アサリを捕食するクロダイ

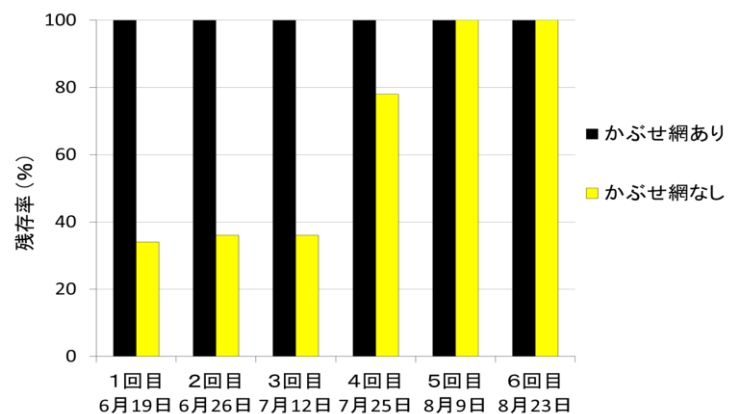


図3 かぶせ網の有無によるアサリ残存率の比較